（様式１）

茨城県立三和高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和７年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

地域の産業発展に貢献し、地域コミュニティの発展に寄与できる人材の育成

【育成を目指す資質・能力に関わる方針（グラデュエーション・ポリシー）】

主体的に学習活動や学校生活に取り組む態度、社会性、豊かな人間性、課題解決能力の育成

各学校で定める目標と育成する資質・能力

探究の見方・考え方を働かせ、地域や社会の「人（自分自身、他者）」「もの（地域の自然や歴史・文化など）」「こと（地域社会や世界の諸問題）」に関わる総合的な学習を通して、自己の在り方生き方を考えながら協働的な活動を実践し、地域の諸問題について自ら学び、課題を見出し、解決していけるようにするため以下の資質・能力を育成する。

(1) 探究の過程において、課題の発見や解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域や社会の特徴や強みに気付き、それらが人々の関わりや協働によって支えられていることに気付く。
(2) 地域や社会と自分自身との関わりから問いを見いだし、課題解決に向けた仮説を立案し、情報活用能力を身に付けるとともに、論理的にまとめ、表現する力を身に付ける。
(3) 探究活動に主体的・協働的に取り組むとともに、互いの良さを生かしながら、持続可能な社会を実現するために行動し、社会に貢献しようとする態度を育てる。

総合的な探究の時間の学習評価

〇テキスト・ワークシートの記述や、ポスター・研究レポートの内容、成果物、発表等を対象にしたルーブリックを用いて、各評価の観点の到達度をはかる。
〇学年末に授業全体のルーブリックに照らして、評価文言を決定する。
〇振り返りシートを過程の評価として加味する。
〇授業担当者会議において、学習活動の評価観点や指導上の課題を共有する。
〇教育課程検討委員会において、総合的な探究の時間に関わる教育課程に対する評価を実施する。

生徒の実態

〇学習への苦手意識が強い
〇自己肯定感が低い
〇他との活動より個の活動が得意
〇人懐っこい性格
〇指示されたことを実行できる

生徒の発達をどのように支援するか
〇配慮を必要とする生徒への指導

〇個に応じたきめ細やかな指導
・特別支援学校と連携し、一人一人に即した支援の実施
・中学校との情報交換及び連携強化

目指す生徒の姿

〇基本的生活習慣が身に付いている
〇自分で考え判断し行動できる
〇互いを認め合える
〇地域に貢献できる
〇人の嫌がることが進んでできる

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

【１学年】：社会の中での自分
①思いやりの心を育む
②職業の選択と社会貢献及び自己実現について考える
③持続可能な社会のためにできることを考える
(1) 探究プロセスを学び、課題解決に必要な知識・技能を獲得する。
(2) 学校生活、職業選択、生活意識などを調査し、主体的なキャリア観、情報分析力、協働的問題解決能力を育成する。
(3) 規範意識や、他者に対する受容・共感・敬意、生命や自然を愛する心を育成する。

【２学年】：地域を支える人財として
①他者との協働を通して、豊かな情操を育む
②地域産業について考える
③地域の文化や環境問題の実態を探り、地域に貢献できることを考える
(1) 身近な自然、地域産業や社会福祉に触れ、環境課題や地域保全に関する知識・技能を獲得する。
(2) 問題解決力や多面的思考力、双方向的なコミュニケーション力を育成する。
(3) 協働する態度や責任感、地域産業や文化を愛する心、環境保全や社会福祉の充実に向けたよりよい生き方や、自分らしさを求める態度を育成する。

【３学年】：グローバルへの入口としてのローカル
①地域に貢献しようとする態度を養う
②自己の在り方を見つめ、どのように生きていくのかを考える
(1) 社会を改善する取り組みや、グローバルな環境問題、課題解決に向けた知識を地域社会で生かすことができないか探究する。
(2) 地域社会の中での自分の在り方を見直し、地域社会に貢献する態度を育成する。
(3) 課題を発見する態度や、社会をより良くしようとする態度、困難を乗り越える力を育成する。

学習活動、指導方法等

【１学年】
〇ワークシートや作文に考えたことを表現したり、それをもとに発表したりする活動を中心とする。
〇適宜４人程度のグループによる協働を実施し、グループによる探究学習の基礎を学ぶとともにインクルーシヴな学びの場を整備する。

【２学年】
〇ワークシートや作文に考えたことを表現したり、それをもとに発表したりする活動を中心とする。
〇原則としてグループで活動する生徒の主体的な探究活動を、教員が巡回しつつ指導・助言にあたることとする。

【３学年】
〇課題研究では２年次までで行った探究活動をもとに、地域社会を豊かにするための探究課題を設定する。
〇グループで設定した課題について、情報を整理し、実験や実践から明らかになったことをポスターやレポートなどにまとめ、発表する。
〇原則としてグループで活動する生徒の主体的な探究活動を、教員が巡回しつつ指導・助言にあたることとする。

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

〇探究企画部、授業改善推進チーム：学習内容や評価等の改善に継続的に取り組む。コーディネーターと授業担当者の間でフィードバックを行う。
〇授業担当者会議：授業担当者とコーディネーターの間で指導方法や評価観点、進捗状況について適宜情報を共有する。
〇総合的な探究の時間研修会（通年）：コーディネーターを中心に、新規採用者、転入者対象の研修を実施し、本校の総合的な探究の時間に関する目標、育てようとする資質・能力についてレクチャーする。
〇企業・市役所・地域ＮＰＯ等との連携：地元企業や古河市役所、地域ＮＰＯ等の協力を得て、探究テーマに関連した講演、体験学習等を実施する。
〇メディアセンターとしての教室の整備・充実：特別教室を整備し、地域をテーマにした探究学習を行うための学習スペースの提供・学習リソースの管理や蓄積を図る。